

議 事 録

会 議 名	第36回 宇都宮市環境審議会 議事録	
開 催 日 時	令和2年1月28日（火） 午後1時30分 ～ 午後3時	
開 催 場 所	宇都宮市役所 本庁舎14階 14A会議室	
出 席 者	環境審議会 委 員	郷間康久委員，篠崎圭一委員，長谷川武士委員，渡辺通子委員，伊藤直次委員（会長），桂木奈巳委員，加藤彰委員，久保昌幸委員，篠崎務委員，遠藤廣委員，金枝右子委員，釜井孝夫委員（副会長），古澤勝司委員，近田忠宏委員，齋藤好広委員，中岡真委員
	欠 席 者	青木章彦委員，近澤幸嗣郎委員，青木洋行委員，市村臣久委員
	事 務 局	環境部長，環境部次長，環境政策課長，環境保全課長，廃棄物対策課長，ごみ減量課長，廃棄物施設課長，廃棄物処理施設整備室長，環境部総務担当主幹，環境政策課課長補佐，環境政策課職員4名，環境保全課職員3名
公開・非公開	公開	
傍聴者・記者	傍聴者0名，記者0名	
会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 会長・副会長選出 「環境審議会規則」第4条第1項の規定により，審議会の会長は委員の互選により定める。⇒ 伊藤直次委員（会長）が選出 釜井孝夫委員（副会長）が選出</p> <p>3 議事 宇都宮の環境（環境状況報告書 令和元年度版）について ⇒ 了承</p> <p>4 その他 第3次宇都宮市環境基本計画等の見直しについて</p> <p>5 閉会</p>	

発言要旨

会長	まずは，宇都宮の環境（環境状況報告書 令和元年度版）についてご審議をいただく。事務局より説明をお願いします。
事務局	— 資料に基づき説明 —
会長	只今から報告書（案）について，委員の皆様からご意見をいただきたい。

委員	<p>別紙2-2 3ページ2-2-1「廃棄物系バイオマスの資源化量」について、平成30年度C評価ということだが、平成28年度は58%、平成29年度60%と目標に対して前進しているが、平成30年度は42%に進捗が後退しているように感じる。資源化を推進することが必要だと考えるが、これまでの流れを背景とともに伺いたい。</p> <p>また、別紙2-5 9ページ5-1-1「もったいない運動の普及啓発事業に参加した人数」についてだが、新聞報道で、「もったいない」の意識が低下しているというのを目にした。宇都宮市は様々な場面で「もったいない」という言葉を普及啓発していると思うが、市民の意識が低下傾向にあるのか。この指標では、イベントが雨で中止になったことが要因でC評価としている。これは、もったいない運動に関わる人たちが少なくなってしまうと市民が誤解を招いてしまうと思う。複合的な要素を組み入れて、指標を設定する必要があると感じるが、この2点について説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>まず、バイオマスの資源化について、平成29年度に大きく前進している要因は、平成29年度に南清掃センターにおいて、剪定枝の受け入れを通年としたことによるものである。現在、南清掃センターの一拠点で受け入れを行っているが、令和2年3月の南清掃センター閉鎖に伴い、南のクリーンパーク茂原、北のクリーンセンター下田原の南北2拠点で実施することで、今後目標達成に向け、さらなる資源化量の拡大を見込んでいる。</p>
事務局	<p>世論調査「もったいない運動の認知度」については、2～3年に1回調査しており、平成26年度は36%、平成29年度は51.4%、令和元年度は48.9%と、横ばいに推移している。指標については、計画策定時に、設定したものであるため、来年度の計画改定の際に相応しい指標について、検討していく。</p>
会長	<p>今回のC評価が変わるということか。</p>
事務局	<p>指標の評価自体は、変えることができないため、要因や今後の対応等について、追記し、公表したいと考えている。</p>
委員	<p>市民1人当たりの二酸化炭素排出量や、家庭系ごみの排出量についてだが、宇都宮市の人口は、現在、約52万人であり、今後、指標等見直ししていく中で、基準年度から年数が経つことで、少子高齢化で単身高齢者が増えていくことなど社会状況が変わっていくことを考慮してもらいたい。</p>
事務局	<p>二酸化炭素の削減目標については、将来人口推計などを考慮し、設定している。現状の排出量については、高齢者数や世帯数などの影響も考えられるため、分析していく。</p>
委員	<p>宇都宮市においても、外国人労働者の移住が増えてきている。外国人の人口を把握するのは難しいところもあると感じるが、把握していないと地域の取り組みの効果が薄れることを懸念している。</p>
事務局	<p>ごみについては、外国語版のごみ分別チラシの配布や、スマートフォンで分別が確認できるアプリの利用促進などにより、適正な分別の周知徹底に努めている。今後、より多くの国の方に対応できるよう、対象言語を拡大することも考えている。また、共同住宅など外国人の方が多く住んでいる情報をいただければ、ポスティングで分別のチラシを配布することも可能であり、外国人の人口が増加してもごみの分別に協力してもらえるような取り組みを実施していく。</p>

委員	<p>二酸化炭素排出量の問題だが、世界的には幼少のころから力を入れて取り組んでいるが、日本全体としても取組が遅れている状況であると感じており、宇都宮としてできることもあるのではないかと考えている。その中には LRT を含めたバス路線見直し、自家用車の交通量削減等、市全体としての取組が具体的でない、目標達成はできないのではないと思うが、どのように目標達成に向けて取組をしていくのか伺う。</p>
事務局	<p>宇都宮市としては、2030年度の削減目標を国・県が26%としているところ27%と1%多い積極的な目標を設定している。その中で、LRT整備をはじめとしたまちづくりを進めるほか、もったいない運動ということで、市民1人1人が省エネ等に取り組んでいただいております、引き続き地道に普及啓発に努めていきたい。また、再生可能エネルギーの導入ということで、家庭用太陽光発電システムの購入を支援していることや、地域新電力で再生可能エネルギーの地産地消を図ることを検討している。来年度、計画の改定を予定しているので新たな事業を検討し、市としても積極的に二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいく。</p>
委員	<p>要望になるが、子どもへの教育は重要であると考えている。5年、10年のスパンではなく、もっと長いスパンで取り組んでいくことで、今現在、指標が前進していないものも前進していくと思う。出前講座ではなく授業として取り入れていくなどしていかないとまくはかないと感じる。また、教育の中で地球はこのままだと将来こんなことになってしまうということや、地球がごみまみれになる可能性があるというように具体的な内容でやらないと推進していかないとと思う。</p> <p>宇都宮市が率先して取り組んでいき、他市から視察にくるくらいやっていただきたいと考えている。</p>
委員	<p>別紙2-1 2ページ「一世帯当たりのCO2排出量(削減量)」の今後の対応の中で、本市独自の「もったいない運動」の取組を強化し、家庭における省エネの推進に取り組んでいくということで、現在は、残しま10運動などに取り組んでいると思うが、今後の施策については、具体的にどのようなことをしていくのか。</p>
事務局	<p>もったいない運動については、マイMy運動といったマイ箸、マイバックを推進していく取組や、食品ロス削減に向けて家庭で残った食材で料理教室を開催するなどの活動を実施しており、引き続きやっていきたい。</p>
委員	<p>マイマイといった言葉自体が面白いと思うので、普及啓発の部分で、分かりやすく目に見える残しま10運動の旗等により、子どもたちにも普及してほしい。</p>
事務局	<p>子どもにもったいないのこころを醸成するため、もったいない体操を広めている。平成30年度は、3園の幼稚園で講習会を開催、今年度は、市内全幼稚園にもったいない体操のDVDを配布し、意識醸成を図っている。先程のもったいないについての市民認識度では、10代、20代については、意識が非常に高い状況で、約8割の方が認知している。</p>
委員	<p>別紙2-4 6ページ「4-1-3 電気自動車の補助件数」についてだが、平成30年度、進捗状況1%と非常に低いのだが、この中の電気自動車の定義を教えてください。</p>

事務局	補助金上の電気自動車については、車検証において、燃料の種類が「電気」になっていることと、家庭に太陽光発電システムを設置しており、太陽光で発電した電気を電気自動車に充電ができること、また、電気自動車に充電した電気を家庭内に給電できるものとしている。
委員	電気自動車は最近増えてきており、燃料電池車やプラグインハイブリッド車、エンジンで発電できるものなど出てきているが、そういうものは対象にならないのか。
事務局	補助の目的が自立分散型エネルギーを推進するというものになっているので、太陽光発電システムがあって充電と家庭内への給電ができ、電気自動車を蓄電池として利用するとき補助がでるといふ制度である。
委員	次回改定時には、電気自動車だけでなく、大きな蓄電池を搭載しているプラグインハイブリッド車や燃料電池車もあるので、補助事業の見直しなど、効果的な補助制度となるよう、次回検討していただきたい。
委員	別紙2-5 9ページの「5-2-1 環境学習センター開催講座等への参加者数」だが、私が所属している大学をみると、幼少期から「もったいない」について学びながら育っているはずだが、全然定着していないと感じる。言葉自体は知っているが具体的な行動となるとなかなか理解していないという現状があり、今後は、大学でも出前講座を実施していただけないかと思う。保育について専攻している学生なので、もったいないを意識しながら、材料を使うことなど学生には、厳しく伝えるが、市の方から話してもらったほうが学生も集中して聞くと思うので、ぜひ、検討していただきたい。
事務局	「もったいない」についての普及というのは、ぜひとも進めていきたいと考えているので、大学での出前講座を実施させていただきたい。
委員	SDGsの取組や教育というものに関して、学校でSDGsに関しての授業が広まっていると報告がでていたり、新聞にランキングがでていたりするが、もったいない運動やSDGsを広めていく活動の中でSDGs教育＝もったいない教育になっていくと思う。新たにSDGsを市民に広げるといふ上では、もったいない運動をうまく活用していくことが非常に重要であると思う。他県や他市からみても、もったいない運動はいい取組であると感じるが、冒頭にあったようにもったいないフェアが中止により指標が低下し、停滞してしまったならば、レベルの低い話ではないかと思う。
事務局	学校教育や環境学習講座などでESDの視点を取りいれている。SDGsについては、今年もイベントのなかでSDGsを知ってもらうことを目的として、体験型ブースを作るなど市民の周知を図ってきた。また、SDGs人づくりプラットフォームやもったいない市民会議と連携して新たな取組をしていくことを検討している。
委員	別紙2-2 3ページ「2-3-2 不法投棄発生件数」の対策として、監視パトロールの増員あるいは、監視カメラとなっているが、これには限度があると思う。今後については、チラシを作って各学校等に配ることで、小さいころから、なぜ不法投棄はいけないのかと考える機会を提供することで、さらに、前進していくのではないかと思う。

事務局	<p>これまで、自治会に対してチラシの回覧はやったことはあるが、不法投棄は大人がやるもので子ども向けの不法投棄の教育については今まで、取り組んでこなかったところであり、今後検討していきたい。</p>
会長	<p>他にご意見がなければ次に進む。 次に、その他の第3次宇都宮市環境基本計画の見直しについて、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>— 資料に基づき説明 —</p>
会長	<p>第3次環境基本計画等の見直しについて、委員の皆様からご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>今回の計画改定後の計画期間は、令和3年から5年間となり、今予想できない様々な大きな変化があると思う。現在の計画においても、計画策定時には、SDGsがこんなにも注目されるとは誰も思わなかったと思うので、時代の流れをよんだ改定を行ってほしい。廃プラスチックの問題に関してだが、宇都宮市は家庭系に関しては、エコプラセンターで資源化を行っているが、これは、投資的な意味合いの方が大きく費用対効果を考えると厳しいものがあると感じるが、市民の皆さんが少しでも焼却ごみを出さずに資源化しようという意識向上につながるという面ではとても意義があると思う。産業系の廃棄物に関しては、中国での引き受けができなくなり、自治体の焼却施設を活用していけないかという話題も出てきている。栃木県に海はないが海洋ごみの問題も出てきている。また、生活に直結するようなレジ袋の問題も出ていることを考えると廃棄物対策の面では、家庭系と事業系の考え方というのは、今までとは大きな変化が出てくるのではないかと感じる。このように新たに出てくる問題に対して、宇都宮ならではのSDGsともったいない運動との親和性また連携・強化ということで対応していただきたいと考えるが、現時点の考えを伺う。</p> <p>もう1点は、指標に関しても、今までは、計画期間の途中であったため、なかなか変更が難しかったと思うが、今回の計画改定に併せて、先ほどの、「電気自動車補助件数」も電気自動車だけに対して補助を出すのではなくハイブリット自動車もエコにつながる乗り物であると思うので、補助金額を調整して補助するなどしていただきたい。また、「市民総ぐるみによるもったいない運動の推進」では、イベントが中止になったからC評価としてしまうのではなく、他の関連イベント参加人数を把握して、反映してほしい。市民が誤解を招かれないような報告書や指標について検討して、新しい環境基本計画を作っていただきたいと思う。現時点での考えを伺いたい。</p>
事務局	<p>昨年8月下旬に県と各市町がプラスチックごみの削減に向け、「栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言」を行った。具体的には、エコショップ認定店などにおいて、レジ袋削減に向け、マイバックの利用を促進するため、店員がお客様にレジ袋の使用の有無を確認するなど、様々な機会や場面を活用し、意識の醸成を図りながら、プラスチックごみの削減に取り組んでいきたい。</p>
事務局	<p>事業系の廃プラスチックに関しては、産業廃棄物に分類されるもので、これについては家庭から排出される一般廃棄物と異なり、排出する事業者処理責任が生じるものである。行政の関わり方に関しては、現在、年1回実施している排出事業者に対する講習会において、廃プラスチックの状況についても説明しているところであるが、今後は、今まで以上に、廃プラスチックの減量化やリサイクルに取り組むような働きかけについて時間を拡大して説明したいと思っている。</p>

事務局	<p>SDGs, パリ協定, 食品ロス等目まぐるしく環境を取り巻く状況は変わっていると認識しており, それらを次期計画に反映して先進的な計画を作っていきたいと考える。指標の見直しや報告書については, わかりやすさが大切だと思っているので審議会の意見を伺いながらよりよいものを作っていきたいと考えている。</p>
委員	<p>新しい法律が策定され, 世の中の動きが変わっていくので, 予想が難しいとは思いますが, 社会情勢などを反映させていってほしい。事業系の廃プラスチックに関して市民に理解してもらい意識を持ってもらわなくてはならないと思う。事業系のごみと別でとらえていると思うが, 事業系のごみの処理費は値上がりが進んでおり, 廃プラスチックにも波及していると考え。宇都宮は, クリーンパーク茂原があり, 国からは, クリーンパーク茂原で, 廃プラスチックの事業系ごみの収集を受け入れてくれないかといった依頼がきている。そういったことを検討している状況だと思うが, やはり市民意識を向上させていくことが重要だと感じている。</p>
委員	<p>指標を適切なものにしないと, 状況を把握することはできないと思う。特に気になるのは, 地域全体の話ではなく, ある特定の地域のことだけ取り上げていること, 例えば大谷地域のいちご栽培等について, これだけでは全体的な動きを把握できないと思う。また, 指標については, 市全体の具体的な取組が理解できる適切な指標を設定してもらいたいという要望である。</p>
	<p>もう1点は, 要望であるが, レジ袋削減と世の中では騒がれているが, ごみが出るのは, ものを買うからである。ものを買うことに対して, 何か行政ができることを考える必要がある。リサイクルに関しては, リサイクルはお金もかかるし水も使う。水を使うということは環境破壊と一緒にあり, 出さないのが1番よいこと。宇都宮市として何か対策を考えてほしい。</p>
会長	<p>議事について以上でよろしいか。 ほかにご意見がなければ, 議事は終了する。</p>